

表4

表1

 <p>http://art-kameyama.com</p>
<p>お問合せ先</p>
<p>アート亀山2014事務局 Tel&Fax.0595-82-4125 亀山市文化スポーツ室 Tel.0595-84-5079</p>





亀山トリエンナーレ

ART KAMEYAMA 2014

2014.11.2 » 11.9



“かめやま文化年2014”
リーディング事業

広報物

「3つの正円」が相互に組合わさる図形をメインビジュアルとしてデザイン。
同時にARTの「A」を表す。
3つの正円の定義は、創造的な「環境空間」、
その地で創造物を生み出す「アーティスト」、
それを受け止める「鑑賞者」の象徴です。

AD,D 伊藤弘樹



T shirt



B2 POSTER



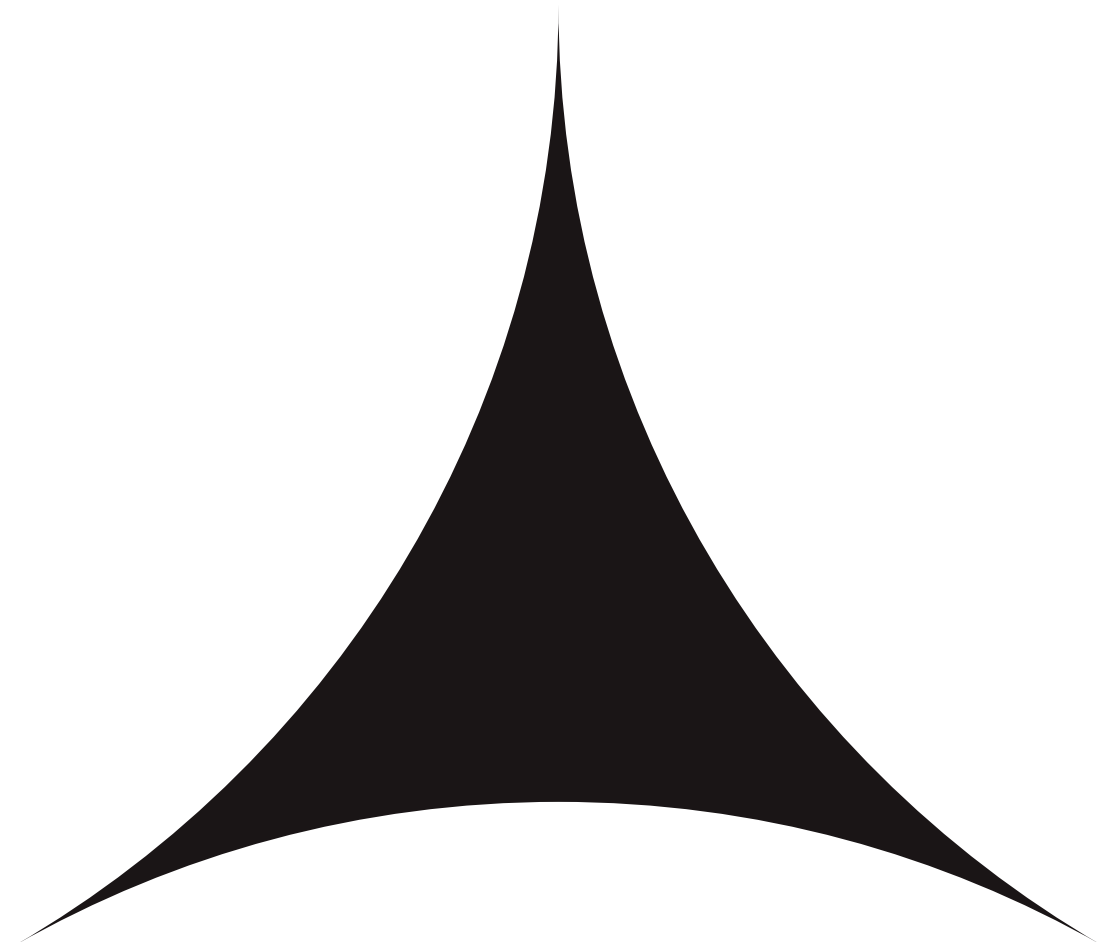
A4 FLYER



OFFICIAL MAP & SCHEDULE



FLAG



亀山トリエンナーレ ART KAMEYAMA 2014記録誌

発行 2015年5月31日
発行所 亀山トリエンナーレ アート亀山2014実行委員会
事務局 〒519-0137 亀山市阿野田町1060 tel.0595-82-4125
URL <http://art-kameyama.com/>
編集 伊藤幸一 伊藤弘樹 伊藤峰子 今岡翔平 藤田はな 森 敏子

「亀山トリエンナーレを終えて」

「亀山トリエンナーレ ART KAMEYAMA 2014」を無事に終えることができ、大変うれしく思います。

本年は亀山市の「かめやま文化年リーディング事業」に位置づけられて開催致しました。

商店街では、絵顔で笑顔の商店街、亀山芸術文化協会の展示、西小学校、東小学校でのワークショップと作品展示、また文化財建造物にも展示しました。

今回は特に展示だけではなく、パフォーマンスやワークショップ、トークセッションなどのアートイベントが多く躍動感に満ちていました。

多くの方に、芸術を身近に感じ、亀山をみつめ、街あるきを楽しんでいただけたと思います。

「亀山トリエンナーレ ART KAMEYAMA 2014」に、参加されました方、ご協力していただきました方、すべての皆様に心より感謝致しますとともに、御礼申し上げます。

これからも、さらなる発展をめざしますので、ご指導、ご協力どうぞよろしくお願い申し上げます。

亀山トリエンナーレ ART KAMEYAMA 2014
実行委員会 代表 伊藤峰子

『マダムが育むアート亀山』

何ごとについても言えることだが、成長を見守るのは楽しい。自分がそれに関与していれば、なお更だ。三重県亀山市で十一月月上旬に開催された現代美術のイベント「アート亀山」についての、もっともシンプルにして率直な感想かもしれない。

2008年から毎年開催されてきた「アート亀山」は、今回から「亀山トリエンナーレ ART KAMEYAMA」として再出発した。全国公募によるコンペで選ばれた若い作家四十九人に三重ゆかりの作家十三人も加わり、絵画、立体、映像、インスタレーション、コンテンポラリーダンスなど幅広いジャンルでの展示やパフォーマンスが実現した。

かつてにぎわっていた亀山の東町商店街は今では人通りが少なく、シャッターを下ろした店が目につく。こうした状況を打破し、少しでも活気を取り戻したいとの思いから始まったのが「アート亀山」だ。筆者は当時、三重県立美術館(津市)に勤務していた関係で街の元気な「マダムたち」からこの企画のアドバイザーを頼まれ、それが縁で美術館を退職した今もお手伝いしている。

展示会場は商店街の空き店舗や空きビルなど。設備の整った美術館とは勝手が違い、展示する作家の側も苦労が多い。また、ボランティア組織による運営なので資金に乏しく、会場作りでは廃材を使い、照明機材のスポットライトも中古品をネットオークションで安く入手するといったあんばいだ。

開催頻度が三年に一度へと衣替えした今年からは、旧東海道沿いに残る市指定文化財の館家や加藤家も会場となり、評判となった。歴史が沈潜し、風雪に耐えてきた文化財は若い作家の感性を刺激するらしく、展示スペースを巡って参加作家による陣取り合戦が繰り広げられた。古い建物の中に現代的な作品を持ち込んだことで「化学反応」が起こり、非日常的な空間が出現したことは言うまでもない。文化財を快く提供してくれた市の文化財担当室長に感謝したい。

7回目を迎えた今回の最大の収穫は参加作品のクオリティーが向上したことだろう。事業の質を左右する指標だけにこの点は見逃せない。「アート亀山」が始まった当初はクオリティーの面で心配もあったが、回を重ねるごとに良くなってきた。優秀な若手の参加が増えたお陰かもしれない。側聞するところでは、東京や名古屋の主要な美大でも『アート亀山』が認知され始めたという。

現代美術を街の活性化に役立てようという動きは今日、国内各地で広がつつある。こうした動きを自治体が主導するケースも少なくない中、「アート亀山」は地元の「マダムたち」が推進してきた。フットワークの良さが際立つ一方、先ほど触れたとおり、資金集めや事務局運営では苦労している。

「アート亀山」が目指すのは「若手作家の登竜門」だ。参加作品に「亀山らしさ」が反映されることも重要なポイント。今後はこうした点を抑えつつ、よそで開催されているアートイベントとの差別化を図り、事業のさらなる充実を期してほしい。

「マダムたち」は実に気が早い。既に、三年後の『トリエンナーレ』を見据えて動きだしている。彼女たちとの付き合いも長くなりそうだ。

亀山トリエンナーレ ART KAMEYAMA 2014 監修者・前三重県立美術館長
井上隆邦

(2014年12月19日付け中日新聞夕刊掲載)

亀山トリエンナーレ ART KAMEYAMA 2014によせて

これまで6年にわたって開催されてまいりました「アート亀山」は、本年亀山市が取り組む「かめやま文化年2014」の「リーディング事業」として開催されました。

今回から3年に1度の頻度で開催するトリエンナーレ形式での初開催となり、亀山市芸術文化協会の方々の協働もあって、これまでの東町商店街に加え、歴史的なまちなみの佇まいが残る西町を会場として、新たな亀山市の魅力が引き出されている8日間でした。

とりわけ、西町の旧館家住宅、加藤家屋敷での展示は、古雅な空間を今までにない形で演出され、かつてより残されていた備品を作品の一部に使われるなど、創意工夫によりそこにしかないアートを体感することができました。

一方、オープニング記念イベントでは、これまでのアート亀山への参加を契機に、目覚しい活躍をされた3名の作家に「アート亀山みらいアワード」が贈られました。今後の英気あふれる活躍に注目してまいりたいと思っております。

本市といたしましても、市民の皆さまのクオリティ・オブ・ライフ(暮らしの質)の向上を目指して、かめやま文化年プロジェクトの取り組みを進めてまいりますとともに、「文化の力」を生かしたまちづくりを進めてまいりたいと考えておりますので、一層の協働をお願い申し上げます。

最後になりますが、これまで斬新な切り口を開拓し続けてこられたアート亀山ですが、今後も実行委員会の皆様のお力をおもちゃして、一層の発展をいただきますことをご祈念申し上げますとともに、「亀山トリエンナーレ ART KAMEYAMA 2014」の開催にご尽力いただきました、関係者の皆様のますますのご活躍とご健勝を心からお祈り申し上げます。

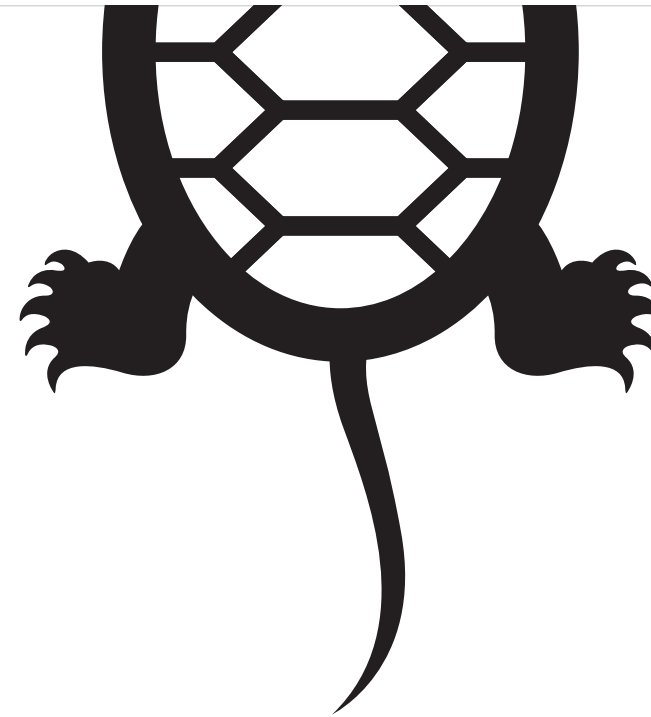
亀山市長 櫻井義之



亀山トリエンナーレ ART KAMEYAMA 2014は、雨の降る初日からたくさんの方がマップを片手に、西町や東町商店街を歩いていました。今年は初めて市の文化財に指定されている旧館家住宅や加藤家屋敷にも作品が展示され、歴史的な趣の中で作品やパフォーマンスをお楽しみいただきました。

来場者、参加者の皆さんには、現代アートが発する新しい息吹と共に、亀山の歴史・文化を感じていただけたのではないのでしょうか。

亀山市文化スポーツ室 まちなみ文化財室 観光振興室



CONTENTS

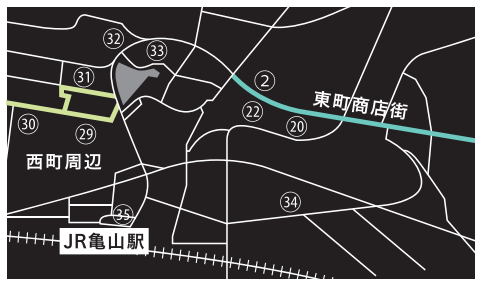
ご挨拶	P 1	—	P 3
展覧会場	P 5	—	P 6
スケジュール	P 7	—	P 8
東町商店街 出品作品	P 9	—	P 25
西町商店街 出品作品	P 26	—	P 39
イベント	P 40	—	P 49
取材メディア	P 50		
メッセージ	P 51	—	P 52
メールマガジン	P 53	—	P 76
お世話になった皆様	P 77	—	P 80
広報物	P 81		
編集後記・奥付	P 82		

OFFICAL MAP

亀山トリエンナーレ ART KAMEYAMA 2014

東町商店街・西町周辺

- ② 亀山市民協働センター
- ③① 西町・加藤家屋敷
- ②⑩ 東町ふれあい広場
- ③② 亀山城跡
- ②② ガラリーKUSUKUSU
- ③③ 亀山市役所
- ②⑨ 岡田屋本店 月の庭
- ③④ 亀山市文化会館
- ③⑩ 西町・旧館家
- ③⑤ 茶気茶気



■ 総合案内所 **ギャラリーKUSUKUSU** 〒519-0125 三重県亀山市東町1-3-5
 ■ 休憩所 亀山市民協働センター Tel.0595-84-5800

西町周辺 加藤家屋敷・旧館家のみ [9:00~16:30]

③① 加藤家屋敷
 池田聖太 山崎亜記子
 オシミタダン 山下由貴
 小林智紀 ろくいん
 宅森純子 CAKE-HARA

③⑩ 旧館家
 磯部 蒼 竹久万里子
 稲垣美侑 柳岡ひまり
 河邊ありさ 姫野亜也
 喜田恭臣 ホリタイキ
 佐藤仁美 吉永 蛭
 SIO(ESTILUS) ろくいち
 下村雄三 伊藤龍彦

③③ 亀山市役所

③⑤ 亀山城

③④ 亀山市民協働センター

③② 亀山城跡

③④ 亀山市文化会館

③⑤ 茶気茶気

③⑥ 空き店舗 池原健介 (ASIT)

③⑦ 岡田屋本店 月の庭
 Natsuki Kohatada
 濱口新平
 堂本清文
 森 敏子
 井谷うちん

東町商店街

① 空き店舗 大角宅 脇田篤志

② [休憩所] 亀山市民協働センター「みらい」 亀山市芸術文化協会

③ サカエヤ美装 伊藤 宏

④ 空き店舗 高村書店倉庫 大杉好弘

⑤ 大和不動産 原田愛子

⑥ ペルハンター 亀山市芸術文化協会

⑦ 法因寺 STUDIO(Y) nemo

◀ 至 亀山市役所～亀山城～西町周辺

⑧ プランタンさかきや 岡本優希

⑨ 写真のトヨタ 倉岡としえ

⑩ なかや本店 平松典子

⑪ なかの材木店 長谷川健一
ミチバタロバタ文具店

⑫ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

⑬ 空き店舗 阿部宅 さかべひとみ
倉岡 雅
田川真奈美
まちのみか
山鹿翔子

⑭ 空き店舗 元 男子専科123 田村公男

⑮ JDスタイル 市川雄康

⑯ 肉のむかい 野崎粧子

⑰ 元 中村 こんにやく店 ASIT

⑱ 亀山スポーツ 川西みどり

⑲ 空き店舗 元 男子専科123 田村公男

⑳ 東町ふれあい広場 田中 歩

㉑ 高村書店 長縄功太郎

㉒ 喫茶 佳 亀山市芸術文化協会

㉓ 小林時計店 亀山市芸術文化協会

㉔ アートガーデン 崖の上 塚田菜生

㉕ 青木ビル 大島憲和
さいししょうこ
佐藤博敏
佐藤 学
福本麻由子
美濃部貴夫

㉖ しぼりや 藤田昌久

㉗ アーケード・猫の館前 田島悠史

㉘ 猫の館 崔 喜載
+くっさん

㉙ [総合案内所] [アートショップ] ギャラリーKUSUKUSU

⑳ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㉑ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㉒ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㉓ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㉔ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㉕ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㉖ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㉗ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㉘ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㉙ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㉚ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㉛ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㉜ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㉝ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㉞ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㉟ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㊱ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㊲ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㊳ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㊴ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㊵ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㊶ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㊷ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㊸ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㊹ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㊺ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㊻ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㊼ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㊽ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㊾ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

㊿ 空き店舗 元 森川食品 尾崎 藍

SCHEDULE

 亀山トリエンナーレ
 ART KAMEYAMA 2014

イベント内容	場所・時間	1日 [土]	2日 [日]	3日 [月]	4日 [火]	5日 [水]	6日 [木]	7日 [金]	8日 [土]	9日 [日]
Main Exhibition	東町商店街・西町周辺 [10:00~17:00] ※最終日のみ16:00まで	上記MAP内 各アーティスト								
アートショップ	ギャラリーKUSUKUSU [10:00~17:00] ※最終日のみ16:00まで									
似顔絵広場	東町商店街 西町・旧館家周辺 [10:00~16:00]	上阪泰正 大野一哉 鈴木昭宏 畑 全二 村川 透 村田幸一								
今年も似顔絵(?) やってます	会場各地 [期間中不定期]	倉岡 雅								
亀山モンマルトル	あなたの好きな ところ [10:00~16:00]	受付:亀山市市民 協働センター (画用紙、画板は貸出します)								
ボディペインティング	猫の館 [10:00~16:00]	崔 喜載 + ぐっさん								
水マーカーで道に描こう	なかの材木店周辺 商店街アチコチ [10:00~16:00]	ミチバタロバタ 文具店								
ワークショップ 古着でアート	青木ビル [10:00~16:00]	さいきしょうこ								
ばたのんの紙しばい& くじびき	ナカヤおもちゃ店 2日[11:00~13:00、15:00~] 9日[13:00~15:00~]	波多野友香								
絵顔で笑顔の商店街	東町商店街 西町・旧館家周辺 [10:00~16:00]	出展作家								
夜間展示 「COUNTERS」	東町商店街 猫の館前 [16:30~21:00]	田島悠史								
亀山の子どもたちの 作品展示	東町商店街店舗 [10:00~17:00]	西小・東小の 子どもたち 佐藤仁美								
作家による アートガイドツアー	亀山市市民協働センター 「みらい」集合 [14:00~]	伊藤龍彦								
ライブペインティング	阿部家空き店舗 [10:00~16:00]	さかべひとみ 山鹿翔子								

イベント内容	場所・時間	1日 [土]	2日 [日]	3日 [月]	4日 [火]	5日 [水]	6日 [木]	7日 [金]	8日 [土]	9日 [日]
ライブペインティング	商店街界隈 [期間中不定期]	倉岡 雅 田村公男								
パフォーマンス 巨人が絵を描きます!	なかの材木店 [10:00~16:00]	長谷川健一								
オープニング記念イベント アート亀山みらいアワード	西町・加藤家屋敷 [17:00~18:30]	受賞者 佐藤学 下村雄三 美濃部責夫								
オープニング記念イベント 「次世代の芸術表現を地域が 生み出すことは可能か」	西町・加藤家屋敷 [17:00~18:30]	トークセッション 井上隆邦 × 田島悠史								
オープニング記念イベント 映像「亀山 東町昇天街」	西町・加藤家屋敷 [17:00~18:30]	CAKE-HARA								
オープニング記念イベント ダンスパフォーマンス	西町・加藤家屋敷 [17:00~18:30]	パフォーマンスG ろぐいん								
オープニング記念イベント 音楽×ダンス×映像	西町・加藤家屋敷 [17:00~18:30]	大岡英介 & 中沢レイ								
パフォーマンス&映像 「FOOLISH GAME」	西町・加藤家屋敷 公演:3日[16:30~] 4~7日[14:00~] 8日[11:00~14:00~]	パフォーマンスG ろぐいん								
クロージングイベント 「伝統的の日本建築を 運用する」	西町・加藤家屋敷 [14:00~15:30]	トークセッション 嶋村明彦 × 浜田晶則								
キッズダンス ワークショップ	亀山市文化会館 [10:00~11:30]	パフォーマンスG ろぐいん								
ふれあいマルシェ+ 亀山みそ焼きうどん	東町ふれあい広場 [11:00~15:00]									
写真展	鉄道写真	亀山市文化会館 [9:00~21:00]	鉄道写真実行委員会							
	「FOOLISH GAME」 image写真	JR亀山駅前・茶気茶気 [9:30~17:30]	パフォーマンスG ろぐいん							
お茶席	亀山市協働センター 「みらい」 [10:00~15:00]	亀山市芸術文化協会								

亀山トリエンナーレ
ART KAMEYAMA 2014



出品作品



脇田 篤志 駒の線(こまのせん)
たくさんの方との出会い、作品制作、いい体験させていただきありがとうございました。



伊藤 宏 はな一代記
動員され学び得ざりし口惜しさの
まざまざといま 有事立法審議 長井隆子
85歳になる従姉の女学校時代は戦争の最中であった。
長年描いている「はな一代記」を通し彼女の思いを少しでも表現したいと思った。



大杉 好弘
view of window
sign in forest
bridge
object
landscape on town
ainbow lake
view of window (guide)
church in forest

私はイメージが不確かさを含みながら目に見え、触れられる現実のものとして現れることに関心があります。
私が抱くイメージは、現実に見る物や触れるものがきっかけになり、現実のものを含む場合もありますし、全くの想像上のものだけになる場合もあります。
そのイメージから感じる現実感の欠けた不確かな空間や、その空間に私が感じる確かな現実感を制作することで感じていきたいと思えます。



原田 愛子 「葉送り」
亀山市内で集めた葉っぱで写真を制作しました。亀山で出会ったの方々のおかげで、制作から展示まで、とても楽しいものになりました。ありがとうございました。



STUDIO(Y)nemo 昔あそびの音風景

子どもたちが遊ぶ姿。「昔よく遊んだ」という来場者の方の声。
昔あそびの空間を、音を、ほんの少しでも再現できたでしょうか。



倉岡としえ Space、ネコとはな など

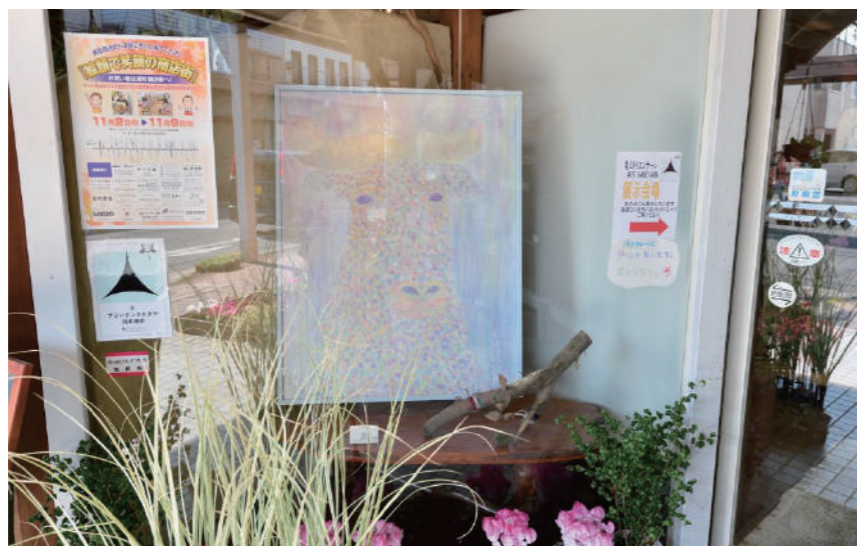
DAYS

写真のトヨダさん・・・

一面ガラス張りの透明な空間、

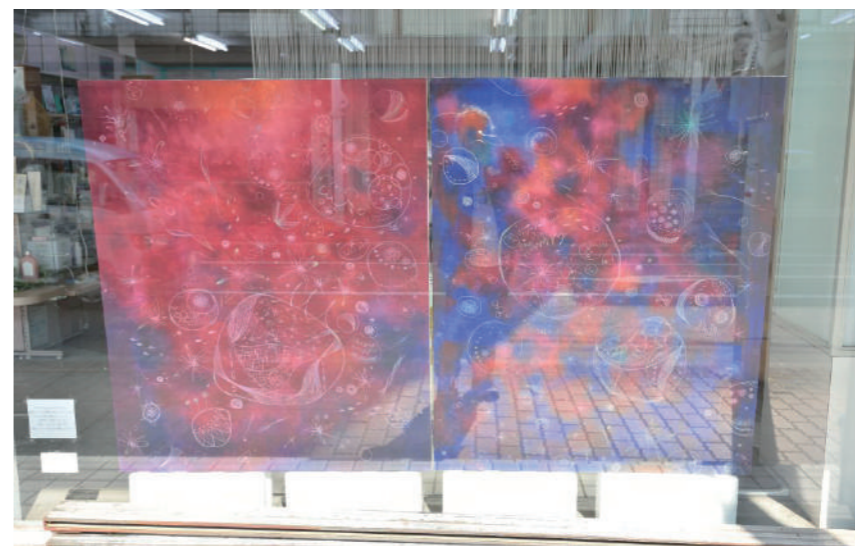
今回、東町商店街にてわたしの6店舗目の展示場所となった。

西町へと場が広がったが、3年後も人の流れが変わることなく今年以上に東西の両町をつなげたい。



岡本 優希 bienvenue

ペールがかかったような柔らかいイメージにしたかったのでジンクホワイトを何度も重ねました。お花屋さんの雰囲気素敵でしたので、良い展示をさせて頂きました。



平松 典子

毎年新しい作家さんとの出会いがあり、楽しいです。今年も、たくさんの刺激をいただきました。商店街の方々とも、少しずつ繋がりが広がって、地元の魅力を再度感じました。繋がりを大切に、この芸術祭がこれからも続いていくことを願っています。



ミチバタロバタ文具店 水マーカ―道にらくがき

わたしが一番、道遊びの楽しさを満喫できたような気がします。今回初めてお店を作り、ゆったりと遊べる空間を持つことができ、体験した人ともゆっくり話をしたりできたので。



尾寄 藍 「ニューカレドニア」「カラフル糸こんにやく虫」「集合住宅」

おもむくままに描いた絵です。

亀山トリエンナーレ、出させていただいてありがとうございました。



長谷川 健一 巨人の絵

日本のいろいろな所から、アーティストが集まった、亀山トリエンナーレ。

なかの材木店にも、全国から優れた木が集まっていました。木に囲まれて絵を書くのは、気持ちいいものでした。巨人のまま見た、夕方の山景色は、素晴らしかった。



波多野 友香 つくもがみのぺろちゃん

「人形と暮らす老夫婦」の紙芝居を観てくれた親子が「持っているお人形も動くかも知れないよ」と話してくれたのが印象的。お店の方のご協力もあり沢山の方に観て頂けて、感謝の限りです。



倉岡 雅 鏡・KAZENOKEI・女
 「亀山トリエンナーレ」の名で訪れる人の多さに驚きました。そういう意味でも盛会だったと思います。私は初めて若い作家とシェアなるものを経験しましたが、阿部家の場の力もあり充実した空間になりました。また、会期中、ライブペイントの競演もあり来場者の反応も良かったようです。阿部家周辺でもワークショップや、ライブペイントなどもあり、西町に負けない盛り上がりが見られました。作家の皆さんすべてに感謝ですが特に、ろぐいんの3人組には「感謝、感謝、嵐のキッス！」の気分です。



田川真奈美 通り過ぎる季節、とどまる色
 阿部宅では、毎日人がおり、刺激になりました。展示方法等色々勉強になりました。本当にありがとうございました。



まちのみか ひとり (後方作品) 倉岡 雅 女
 私たちは、ひとりひとり皆違う。
 だから、面白い。
 だから、輝ける。
 たったひとりの自分を、生きる。



山鹿翔子 シミ
 今回、初めて参加させていただきました。きれいに整ったギャラリー等の展示では見ることのできない、新鮮な環境のなかにある自分の作品を1週間観る機会ができました。また、さかべさんと同じ空間で描くことができました。(ときどき倉岡さんも似顔絵師として出没) さかべさんとは、お互い住むところが遠く、描く対象もお年寄りと小さな子供、モノクロとカラフル…対照的でしたが、描くことが楽しい！という気持ちで空間を共にできて、たのしい制作ができました。すてきな場を提供してくださった阿部さん、同じ会場で展示をつくりあげてくださったみなさま、実行委員の方、地域の方々、足を運んで来てくださった方々、たくさんの方に支えられている展示だったと思います。貴重な機会をいただきありがとうございました。



さかべひとみ ライブペイント
 「思い出」他
 ホワイトキューブでの展示とは違ったその場を生かした展示に参加できて嬉しかった。7日間の間、毎日来て絵を描く間、町の人たちや商店街の方とのふれあいがあって、格別な想いの残る展示期間になった。



市川 雄康
 ① つつみ一章ー 19
 ② つつみ一抱ー
 ③ つつみ一空ー
 ④ つつみ一風ー
 ⑤ かみと木のうた 茶
 ⑥ しかく、ころころ 3

握りの紙のしわや、折り紙やつつみ紙に残る、人の「想いの行為」のしわを、一期一会の出会いとして、時間の経過とともに画面に定着したいと思っています。



野崎 粒子 変化の訪れ
 個人的に展示することが7年ぶりだったのもあり、不安いっぱいでしたが、ここからが新たな活動のはじまりだと意識させていただける場となりました。



ASIT 足下
 様々な出来事が一冊にまとめられた新聞を素材に、インスタレーションを行いました。リビングで真新しい新聞を広げるという日常について、これに対比するような空間は新聞の混沌と、流されてしまった感情を表現しました。



田村 公男

愚かしい騒がしさの中で、アートという言葉はなかなか聞き取れません。
 しかし、判定することよりも理解することを
 答えを探すことよりも問いかけることを大切にしなければなりません。
 亀山トリエンナーレというコンテンポラリーアートの祭典に平面の具象作品を
 出し続けています。私なりにずっと問いかけています!!!



川西 みどり 亀もスポーツ

亀を 50 程吊るしました。吊り糸が作品の紐と絡まり、亀を動かすことができませんでした。
 親、子、孫の亀を吊るして動かしたかったです。
 今年は盛大でした。



田中 歩 回遊する平面

亀山という街は元々宿場街を指し
 東海道への通り道である
 この場に一時的に休息の場を設ける

平面は場所と人をつなぐ役割を担い

回遊し 再び歩きだす

東海道における一里塚のような存在になるだろうか



長縄 功太郎 BOOK BOKKU TO KAMEYAMA

今回、作品展示を本屋さんで行うことになった。最近、活字離れが叫ばれている。アナログからデジタルへの移行。私は手帳を2つ持っている。ひとつは、電子手帳もう一つは手書きの手帳。両方に記載している。どちらか一つでは不安である。でもどちらかと言えば、手帳に手書きをした方が安心である。デジタルデータだとデータが消えてしまわないかなとなぜか不安になる。実際はそうではないかもしれない。紙の質感に気に入っているのだろうか。手帳・本などは紙からできている。分厚い本の元の木はその厚さと同じ容量の木からできているのだろうか？紙はもともと木から作られる。木で本を作ったらどうなるか？早速作ってみた。なかなか思うようにはいかない。でもよしとしよう。表紙は？亀山を象徴するもの？亀山蠟燭、これは毎日朝、私自身がご先祖さまをお参りする時に使っているものだ。
 ところで肝心な本の中身をどうするか？かめやまと自分との関係点。それは6年前からのこのアート亀山である。今までの自分の作品を振り返ってみよう。ここは本当に景色がいい。西の山々の頂の稜線の美しさ。これにしよう。本屋さんでの作品展示になるから、本の作品を作ってみよう。これが最初の動機である。本の作品なら、本屋さんの中棚の中に展示しよう。



藤田 昌久 東町・西町界隈を彫る

亀山トリエンナーレは地域の協力があってこそできるイベント。
商店街の住民の支援で支えられている。
生活スペースに展示することで生まれる交流を大切に、
もっと亀山をアピールできる方法を考えていきたい。



塚田 茉生 干涉2

風が糸に影響を与え、その姿を板に映す。目に見えない実物が、見ることのできる実物に、
そして見ることはできるが虚構のものに、だんだんと影響を与えていく。



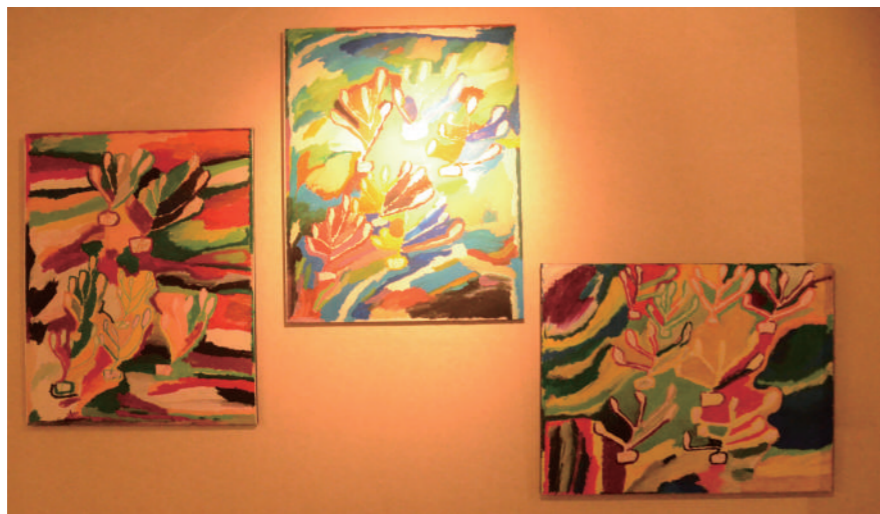
大島 憲和 「ともだち」「あやつり人形」「森の中のきのこ」

素敵なギャラリーに展示していただき、それを見た大島さんはとても喜んでいました。
これからの制作にも力が入ると思います。(風の丘・高尾)



美濃部 責夫

「アート亀山みらいアワード」を受賞させていただき、表彰された時の美濃部さんの誇らしい姿は、忘れません。
こんな素晴らしい機会を頂き感謝しています。(風の丘・高尾)



佐藤 博敏 「花」

花をテーマに絵を描き続けています。

亀山トリエンナーレで、たくさんの方に見ていただいて、とても嬉しく思っています。

佐藤さんは、これからも自由に花を描き続けると思います(風の丘・高尾)



福本 麻由子 room シリーズ

青木ビルという、時間の経過によって出来た空間の雰囲気を壊さないように、作品と共存する空間を作ろうと試みました。作品は2人の少女が部屋で静かに遊ぶ様子を表現したかったので、自然光は全て遮り、作品にだけそっと照明を落とし、少女たちの部屋を作りました。展示の際には、井上さん始め、地元スタッフの方やボランティアスタッフの方に様々な助けを頂きました。本当に温かったです。感謝いたします。



佐藤 学 地の軌跡 / 地の軌道

今回の展示は、青木ビルの一階から二階に上がる階段付近の空間への挑戦でした。階段を活用した展示をこれまで経験したことがなく、当初は難しさを実感しておりました。

しかし、実際に取り組んでみると、階段を登りながら鑑賞したり、作品を見上げたり見下ろしたりと、視点の移動が生まれる空間への面白さを実感する機会となりました。

是非また展示を試みたい空間です。展示に関わって下さった皆さま、本当にありがとうございました。



さいきしょうこ

亀山に住む方々の古着を使った展示をしました。いろいろな年齢の方がいらして下さり、触ったり、寝転んだり、ワークショップで作品を作ったり、思い思いの時間を一緒に過ごしてくれました。

さまざまな感じ方があることを肌で感じる事ができ、たくさんのフィードバックがありました。この展示を通じて、衣類という素材の魅力を改めて感じ、さらに違った展開をしていきたいとワクワクしています。たくさんの作家の方とも知り合えたこと、たくさんの笑顔から元気をもらえたことが本当に嬉しかったです。実行委員の皆様を始め、ボランティアの皆様、急な変更を手伝って下さったり、展示のアドバイスなどしてくださり、本当にありがとうございました。カレー美味しかったです！



崔 喜載+ぐっさん ボディペインティング

お客さんが身体に絵を描いた姿で亀山の街を歩くという非日常がアートを楽しむきっかけになってほしいという思いで参加したトリエンナーレは、ワークショップを開催した4日間で50名以上の方が訪れるという素晴らしい結果となり、アートの素晴らしさを再実感しました。この経験を生かしてこれからも頑張ります。



池原 健介 (ASIT) greeting

亀山は新旧の賑わい・風景が同居する。旧亀山宿の街道と、東町商店街から延びる県道との結節点にふと、気に留まる空き地がある。ここでの創作に係る過程を通して亀山がつくる独特の空気の所以を探る。



田島 悠史 『COUNTERS』

出展作品『COUNTERS』は、人が通ると、路面上に投影された亀山トリエンナーレの関係者の顔が『おはじき』のように跳ね回ったり、他の顔に弾んだりするインタラクティブアート作品です。路上というパブリックスペースへの展示によって、亀山トリエンナーレと、それに関係していない人を少しでも繋げるきっかけになれば、と考えて制作していました。ぼくの作品に対して、子どもがはしゃいで遊ぶ姿は、まさに「見たい光景」でした。また、作品の中に知り合いを見つけた地元の方が、嬉しそうに顔を踏もうと「いじわる」する姿は嬉しい誤算でした。次は3年後。3年後の亀山とぼくはまた違う関係になっているはず。次回も是非参加して、その時の亀山に必要とされるような、その時のぼくにしかできない作品を作りたいな、と考えています。最後になりますが、ぼくの作品に協力してくれた皆様、亀山トリエンナーレの皆様、本当にありがとうございました。



山下 由貴 夏の風景

場と作品を会話させることで、臨機応変に展示プランを変えていく楽しみをこの芸術祭で知ることができました。



池田 聖太 カメノ碑

複雑な街道や坂道をもつ亀山宿、あるいは亀の甲羅。こうした亀山にまつわるいくつかの即物的なイメージと、歴史ある空間とが重なることで、少しいびつな時間の交わりが生まれる場となったのではないか。



オシミ タダシ 孔雀

「加藤家の、あの限られた空間にだけ展示する意味がある作品を。」そんな想いで制作・展示した作品です。二度と再現される事が無い空間・八日間。良い経験になりました。



ろぐいん FOOLISH GAME

亀山という土地で歴史を重ねた伝統美が残る空間で現在東京という都市で大量生産と消費の渦に巻き込まれながら生きる私たちの『還りたい場所はどこか?』という問いをモチーフに、亀山の方々にインタビューをさせていただき、パフォーマンスとインスタレーションを行いました。



小林 智紀 Tシャツ

亀山、「亀」字「山」字、地名の由来、土地の特徴的な形状、古代において、長生の霊物とされた亀・自然信仰の中心をなした山。ショップでTシャツを選ぶように手にとり掻き分ける中で出会う多種多様な異質の「亀」「山」字に、改めて亀山の特性の再考を図る。



宅森 純子



Cake hara Live : Femme Fatale (ライブ:運命の人)

IT化が進み、全てがコントロールできそうな時代ですが、実はコントロール出来ない物の方が多く、その最たる例は一番身近にある自分の臓器ではないでしょうか？そんな臓器で音楽します。



山崎 亜記子

この度の亀山トリエンナーレにおいて、私は加藤家の厩にて「馬が高速道路を走る夢を見る」というタイトルでドローイングの展示を行いました。

8月2日に初めて亀山を訪れ、会社で勤務をしながら制作、11月2日にオープニング。9日亀山トリエンナーレ最終日までの間の良かった事や、悪かった事、うまくいかなかった事、楽しんだ事など、本当に夢を見ていたのは馬ではなく、私の様な気がします。会社の仕事が忙しい中、遅くまで絵を描いて眠ると「私が馬のでてくる夢を見る」事も度々ありました。けれども描く事が本当に楽しかったです。今は、「あんな風にすれば良かった」と思う事もたくさんありますが、展示前、制作にやりがいを非常に感じました。

また亀山トリエンナーレでは、他の作家がいらして、良い刺激を受けました。

亀山トリエンナーレが終わってしまい、寂しく感じます。まるで夢の様な時間でもありました。

そして、現実的に考えた場合、亀山トリエンナーレは今後の自分(制作への)の励み、また貴重な経験に、必ずなっている事を私は強く確信しています。



SiO ORPHES- SUCRES- (オルフェ - シュクレ -)

《キオクにある音を形にする》という造形活動でめぐり遭った作品『オルフェ』。フォルム(外形)の甘さに隠した《ナイフ》と共に、放浪の旅を続けている。

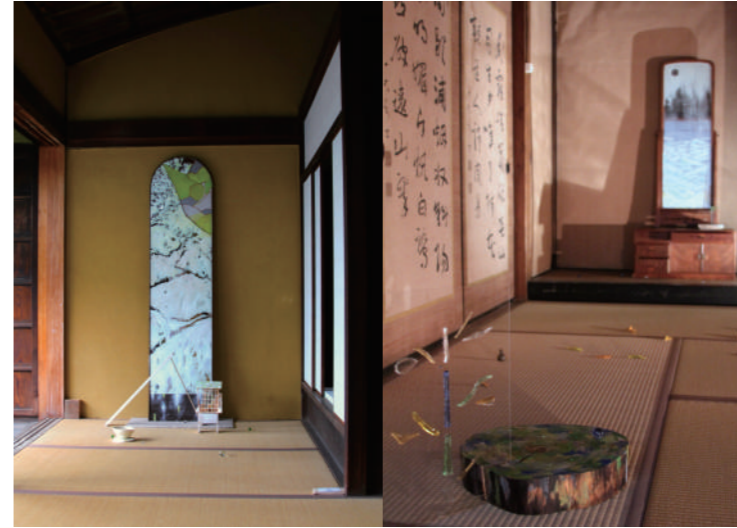
2014年、東海道の歴史的建造物に滞在したオルフェ。アート亀山2014におけるこのキオクが、3年後、どんな音色を響かせ、形を表現するのか。セラミック素材の可能性*と共に、《音を形にする》造形活動を続けている。

*この作品は、セラミック素材の研究結果でもある。《ユニーク》な質感を大切にしている。



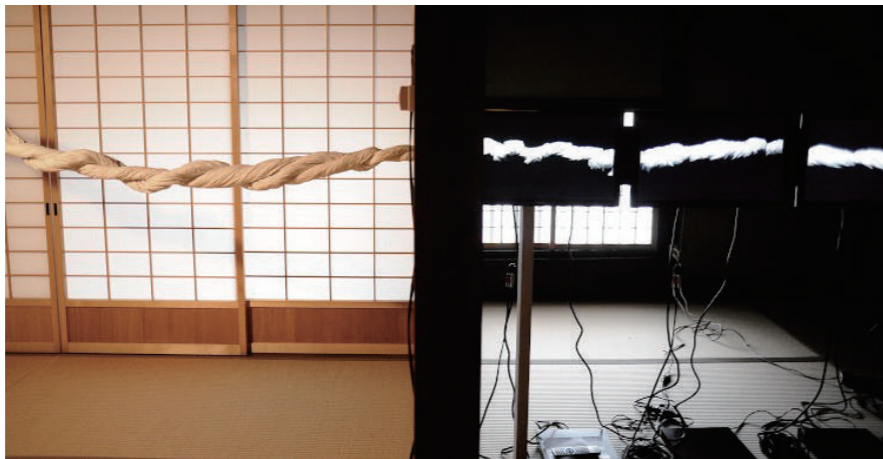
栃岡 ひまり 時の雨にたゆたえ

この作品は、文化財を時代の波に「たゆたえども沈まず」生存する一つのエレメントとして配置し、現代に降る雨から抽出したレイヤーを展開することで、一種のフィルターを生じさせている。ゆえに、旧館家に内包された原始的な質感を、現代に露にするささやかな試みである。



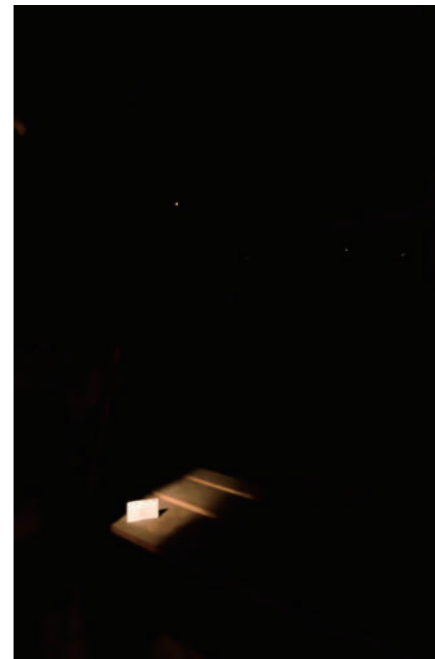
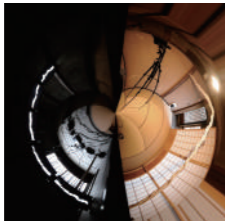
稲垣 美侑 風花の路(1階スペース作品) 紡ぐ景(2階スペース作品)

ある一冊の詩に綴られた言の葉たちのように、空間に配された作品群は互いに影響しあうことによってまだ見ぬ風景を立ち上げていく。柔らかな光、美しい陰影空間、とるに足りぬ小さな物事で成された世界。新たな出逢いが物語を紡いでゆく。有難う御座いました。



ろくいち trace(習作)

時間は絶えず流れている。過去を見つめ、現在を見つめ何が本物か何が偽物なのか自分の目で見て考えて行く事を忘れてはいけないと思っている。



竹久 万里子 マヨイボタル

人の笑顔があふれる町。これが私の第一印象です。出会う人全てが人情味があって温かい。展示をした旧館家は、幕末から大正にかけて呉服商を営んでいたそうです。築140年の御屋敷は、無数のドラマが繰り広げられてきた事を感じさせます。その場所でおこった数々のドラマ、それは人の心の中の、その人だけの美術館にきっと大切に保管されている事でしょう。人の気配に誘われて、昔どこかで見たホテルに、再び出会った気がしました。



河邊 ありさ あなたの輪郭は日に日に曖昧になっていった
 旧館家は元呉服屋だったということで作品のテーマに合う遣り甲斐のある展示空間でした。亀山の方々の温かさに助けられ、沢山の新しい出会いもあり、次へのステップに繋がる大切な展示となりました。



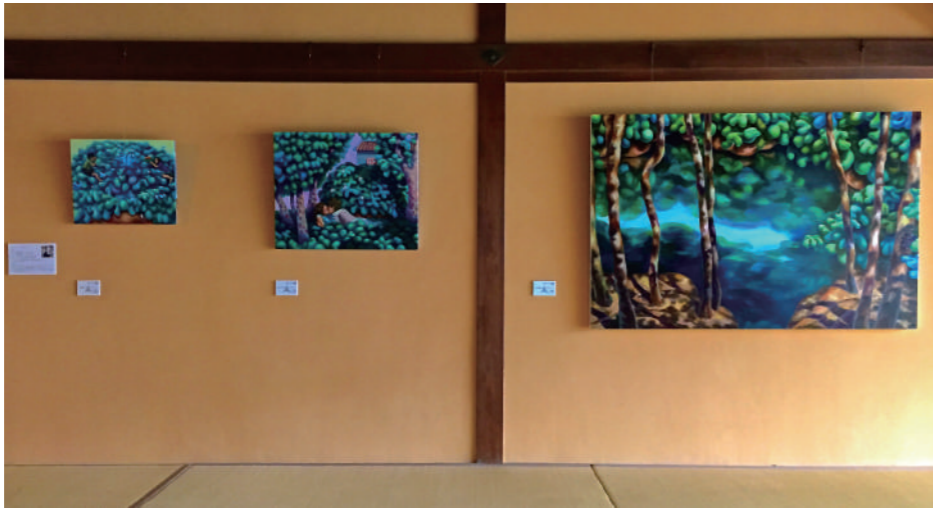
伊藤 龍彦



佐藤 仁美 白景? 炎?
 生命の輝きは「炎」に例えられます。生きることはエネルギーの表出、漆黒の宇宙で光を放ち続けること。全ての一人が生命を燃やして、純粋な白き炎のように光を放ち続けている。それは、この宇宙で一番大切な宝物です。



姫野 亜也
 御影石を彫り、磨く。二つの行為をひたすら繰り返す事で発破され採石されたままの大きな石の塊は、1枚の石彫刻へと変移していった。



下村 雄三 元呉服屋のヒューマングローブ群

今回の試みは歴史文化財建造物の床の間という住空間で、現代の絵画をいかに観せるかだった。庭園からの大正硝子越しに射す光の中で、内と外とを埋没する事なく繋げられたのではないかと考えている。そして素晴らしい出逢いに感謝いたします。



ホリ タイキ ○○谷の○○

今回この様な大きなイベントに参加させて頂き感謝しております。床の間”和”の空間展示は新鮮さが私にとってとても良い経験をさせて頂きました。どうもありがとうございました。



吉永 蛭

summer vacation (水色縦長の絵) ocean & sky (横長オレンジの絵)
andscape (横長巻物風の絵) in the center of the world (青紫の横長の絵)

とても実りある展示でした。今回の展示で終わりにせず、また亀山トリエンナーレに関わりたいです。



喜田 恭臣

Serene silence

この場に居住していた人々の存在が「過去」の柱となり、家屋の現存を静かに支えている。それは家屋自体から滲み出す「記憶」であり、空間となって留まり続ける。

Ceaselessly

現れては消失する「命」は、流転し受け継がれ「世界」に存在する。作品にて、それらと共に在る自身の「生」を見つめる。



磯部 蒼 名前があるものためのギヤ

二両編成のワンマン運転に揺られて着いた亀山という地は、都会にはない、そして外国人が目指す観光地にも無い本当の日本の風情の様なものを感じました。ここで作品を展示する事は、その作品に様々な付加価値を生む(またはある意味で価値を無くす)様な気がして大変興味深い展覧会となりました。次回開催を楽しみにしています。



Natsuki Kohatada haoru ≡ 羽織る = 新たな意味を被せる = 新たな意志を加える

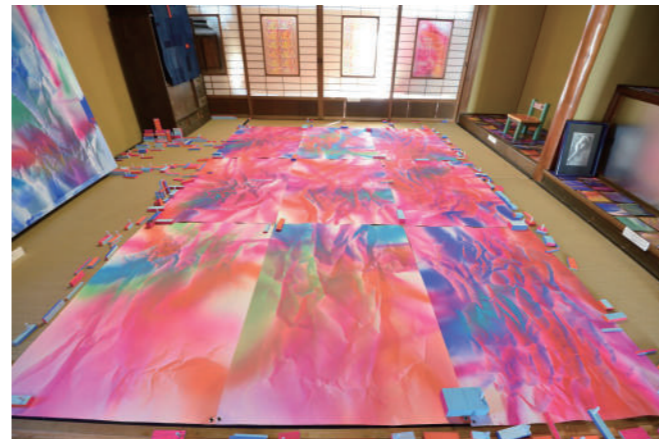
10年程続けている被服へのペイント。
 普段何気なく接している物にペイントを施すことで、新しい意味が加わり違った面が見えてきます。
 今回は以前の作品に加筆した作品+新作を加えての展示となりました。展示場は凹凸のある壁面でディスプレイに少し悩みましたが、その場の特性を活かし動きのある表現で展示になりました。



井谷 うらん Widow of red back (赤い背中の未亡人)

亀山で毒蜘蛛の「セアカゴケグモ(背赤後家蜘蛛)」発見!のニュースをTVで見て、変な名前に興味を持ち調べてみた。名前の由来と共に黒に鮮やかな赤色の美しい形にひかれました。私の制作コンセプトでもある「場」にあったアートにピッタリだと、月の庭の東屋に流木や廃棄物を素材に使い、セアカゴケグモをイメージしたオブジェを製作展示しました。

会期の終わり頃には、庭のあちこちにたくさんの子グモも出没!小難しい芸術論等に興味のない子どもたちが、楽しそうにワイワイいいながら見ていってくれたのがうれしかったです。



堂本 清文 Psychedelic ART "From here to the future, and Getting Started" By Kiyofumi Domoto

歴史のある建築物である今回の会場“月の庭”で“展示=行為”“を行う事に感謝しています。
 月の庭という場所では歴史のページを刻んできたであろう痕跡の数々が私に“新たなインスピレーション”をくれます。この時間の経過を想像し創造することの喜びを感じて表現を行いました。
 今回の表現は時間の経過と人の営みがテーマです。



濱口 新平

「青春地蔵」「魔法使いフィリップ」「BERLIN 初めての訪ね問う」「妖精たちの出迎え」
ドイツとスイス滞在中に制作した絵を主に展示しました。見えない世界の住人たちが伝えたい愛と平和。
この世界もそうなることを願って描きました。素敵な空間、おいしいご飯、新たな出会い。楽しい時間を
ありがとうございました。



森 敏子 「時を紡ぐ」

「月の庭」は不思議な場所。
訪れる度に想いが巡るところ。
和紙を線香で焼き、少し彩色した作品は、
「月の庭」へのオマージュ。



展示にさきがけて
亀山の子どもたちと
ワークショップを行いました

6年生2人一組で協力し、白ボール紙のアートな
オブジェをつくりました。子どもたちは、紙で
できた“白い形”から自由自在にイメージを広げ、見
えないものを見ながら、そして、友達とイメージ
を共有しながら、ステキな形をつくり上げていき
ました。



佐藤仁美
ワークショップ アート・タワー
亀山東小学校 亀山西小学校
10月28日29日



『自分の名前を身体で表現してみよう』というテーマのも
とに親子で参加してもらいました。みなさん、臆すること
なく、とても素直な身体の実現豊かでこちら側も勉強にな
りました。後半はお互いの表現を客観的な視点で見せ合う
ことをやりました。
子どもさんたちの引き出しがどんどん広がっていくのを見
るのはとても楽しかったです。
身体と心は繋がっていますので、今後もどんどん自由に自
分の身体の声と向き合っていたらなと思います。

ろぐいん
キッズダンスワークショップ
自分の名前を身体で表現してみよう
11月3日 亀山市文化会館

亀山トリエンナーレ
ART KAMEYAMA 2014
前夜祭
11月1日
東町協働センターみらい

櫻井義之亀山市長をはじめ、国会議員、県議会議員などの多くの来賓の皆様からお祝いの言葉をいただきました。
"明日からいよいよ本番だ"という若手作家のパワーと期待が集結され、大いに盛り上がった前夜祭となりました



様々なイベントが行われました

亀山トリエンナーレ
ART KAMEYAMA 2014



- 木版画制作ライブ・藤田昌久
- アートガイドツアー・伊藤龍彦
- 巨人が絵を描きます・長谷川健一
- 古着でアート・さいきしょうこ
- 今年も似顔絵(?) やってます・倉岡雅
- ボディペインティング・ぐっさん+崔喜載
- 水マーカーで道に描こう・ミチバタロバタ文具店
- ぱたのんの紙しばい&くじびき・波多野友香
- ダンスパフォーマンス&映像・ろぐいん
- 夜間展示「COUNTERS」田島悠史
- ライブペインティング
倉岡雅 田村公男 尾寄藍 さかべひとみ 山鹿翔子
- 亀山の子どもたちの作品展示・東小学校 西小学校
- 写真展「FOOLISH GAME」ろぐいん
- アートショップ・出品者有志
- 亀山モンマルトル・田村公男 市川雄康 他
- 写真展「亀山と鉄道」鉄道写真実行委員会
- 似顔絵広場
上阪泰正 大野一哉 鈴木昭宏
畑全二 村川透 村田幸一
- 亀山みそ焼きうどん・亀山みそ焼き本舗
- 笑顔で笑顔の商店街・出品者有志



「アート亀山みらいアワード」受賞者

美濃部 責夫

佐藤 学

下村 雄三



2012年のアート亀山に出展させて頂いた時に、井上氏より、「色々な所に発信していくように」とのアドバイスを頂き、色々な公募展に出展し、入選した事がきっかけで、アールブリュット展のポスターのデザインに選ばれました。

そのような活躍も美濃部さん自身はおかまいなしなので、授賞式も心配で、会場に入れるだろうか、壇上に上がることが出来るだろうかと不安でいっぱいでした。が、はにかみながらの笑顔で「ありがとうございました」と伝える事ができました。

彼の精いっぱいの喜びの表現だと思っています。私も驚きと喜びでいっぱいでした。このような発表の場を頂けたこと、心より感謝しています。

美濃部さんの人生の輝かしい1ページになりました。ありがとうございました。

彼は今日も絵を描いています。きっとこれからもずっと

美濃部 責夫 (文・高尾 佳代子)

この度は、亀山トリエンナーレ参加に際し、みらいアワードに選出頂きまして、誠にありがとうございました。

2011年、2012年とアート亀山参加させて頂いてから、関東だけでなく三重県内の様々な場所での展示に繋がり、この度の展示を迎えることができました。そして、亀山トリエンナーレへの参加は、展示活動としての広がりだけでなく、私の現在の表現へと繋がる大変貴重な機会となりました。

私の表現は、亀山の地や文化を作り出してきた先人に学び、亀山の皆さまとの関わりの中で形作られてきたものだと思っています。これからの自身の活動を広げていくことが、いつの日か亀山トリエンナーレの未来へと繋がることを夢見て、更に頑張っていきたいと思います。

佐藤 学

この度はアート亀山みらいアワードを受賞させていただきありがとうございます。今後より一層精進して参りたいと気が引き締まる思いです。

一作家として、アートファンとして、これからの亀山トリエンナーレのさらなる飛躍を期待しております。

下村 雄三



オープニング記念イベント

11月2日(日)

西町 加藤家屋敷

トークセッション・・・井上隆邦 X 田島悠史
「次世代の芸術表現を地域が生み出すことは可能か」

アート亀山みらいアワード表彰

パフォーマンス・・・ろぐいん

音楽 X ダンス X 映像・・・大岡英介 & 中沢レイ

映像 「亀山 東町昇天街」・・・CAKE-HARA

オープニング記念イベント

「次世代の芸術表現を地域が生み出すことは可能か」

パネリスト：

井上隆邦 (前三重県美術館館長)

× **田島悠史** (宝塚大学講師)

11月2日(日)に亀山市西町の加藤家屋敷で午後5時、『亀山トリエンナーレ ART KAMEYAMA 2014』のオープニング記念イベントとして井上隆邦さん(前三重県美術館館長)と田島悠史さん(宝塚大学講師)、2人のパネリストが「次世代の芸術表現を地域が生み出すことは可能か」をテーマに、参加者など会場全体を巻き込んだトークセッションが行われました。トークは田島さんの軽妙な投げかけに井上さんが丁寧で厚みのある答えを返す、といった形で展開されました。最後の質問コーナーでは「都市部での美術展や芸術祭でなく地域のアートイベントに出展する若い作家が増えているとあったが、その作家たちの心境の裏にはどういった想いがあると思うか」という質問に、事務局の機転で2人ではなくセッションを聞いていた出展作家の栃岡ひまりさんが「展示場所の制約のなさが魅力であること(通常文化財を使った展示ができないため)と一般の人が自分の作品をどう思うかが知りたかった」と答える場面があったりなどオープニングにふさわしい盛り上がりで1週間の幕開けを飾りました。

田島：今回の『亀山トリエンナーレ ART KAMEYAMA 2014』にはどんな感想をお持ちですか？

井上：展示作品のレベルがずいぶん上がったように感じます。それから最近、地域をアートで盛り上げようという趣旨のイベントが増えてきていますが『亀山トリエンナーレ ART KAMEYAMA』が独自性を出していくには①若い作家の登竜門であること②亀山市の歴史と文化を取り入れる、といった2点がポイントです。今回の加藤家・館家での展示は②の方でうまくいったのではないかと考えています。

田島：亀山から世界に向けて芸術を発信していくことは可能だと思いますか？

井上：すぐには難しいができないことはないと思います。こういったイベントの場合、まちおこしと芸術の発信の仕方の両輪で考えることが大切だと思います。

井上：最近、都市部の美術展や芸術祭ではなく地域のアートイベントに出る若い作家が非常に増えているんですね。今までの芸術の枠に捉われない作品が出せる場所を求めているのではないかと考えています。

田島：現代美術って普通の人には馴染みが薄い分野ですが、現代美術が地域に理解されるにはどうしたらいいと思いますか？

井上：作品自体はよくわからないけれど、なんとなく商店街の人がインスピレーションをうけていたり、続けてやることによってだんだん地



域の方の理解を得てくる、ということもあります。人間関係が先にできてアートが理解される、という順番ですね。

田島：私も茨城県でアートイベントをやっていた時に同じような経験をしました。1回きりではなくて継続することで地域の人がわかってくれたり協力してくれるんですね。

あとは刺激の強い芸術だったとしても子どもの頃から触れ合える環境を作っていくことも非常に大事だと思います。案外慣れてしまうと刺激の強いものを好きになってくれるってこともあるんですね。

井上：私は若い作家が作品を通じてメッセージを伝えられているのが気になっているのですが、こういったアートイベントでは作家とお客さんの間を取り持つ役割の人が必要だとも思います。見ているお客さんに対して「この作品ってこういう意味らしいですよ」とか声をかけたりしてくれる人ですね。

田島：文化財を使うことはある意味、作家にとっては釘を打っちゃだめとか大きな制約だと思うんですけどそのあたりはどうですか？

井上：それは作家の腕が試されているんだと思います。逆転の発想ですね。『亀山トリエンナーレ ART KAMEYAMA 2014』では文化財を使った展示のノウハウを事務局の方にたくさん蓄積していったほうがいいですね。

田島：こういったアートイベントは「丸投げと

無茶ぶり」が大事だと思います。中心となっていたメンバーが何かのきっかけで変わったらイベントができなくなる…ということではなくて是非「丸投げと無茶ぶり」でいろんな人を巻き込んで継続していったほうがいいと思います。

一文責 今岡翔平



クロージングイベント

「伝統的日本建築を運用する」

パネリスト:

嶋村明彦 (亀山市まちなみ文化財室室長)



11月9日(日)、オープニングと同じく亀山市西町の加藤家屋敷で午後2時からクロージングイベントとして「伝統的日本建築を運用する」をテーマにトークセッションが行われました。これまでの商店街を中心とした展示から大きな転換点となる加藤家屋敷や旧館家の文化財への展示に協力いただいた亀山市まちなみ文化財室室長の嶋村明彦さんと、実際に出展作家として街にベンチを作ったり行灯のワークショップを行なって『亀山トリエンナーレ』に携わってきた建築家の浜田晶則さんが、それぞれの持論を展開しました。

× 浜田晶則 (建築家)

<文化財の保存・活用について>

時代が工業化時代から情報化時代に変化しており、運用についても織り込まれた持続可能な建築が求められています。文化財は歴史のアーカイブであり、文化財をただ保存するだけではなく自分たちが文化財のもつ歴史の中でどういった位置づけになるか、またその時代にあった建築物の道具的有意義性について考えるのも重要ですね。(浜田)

文化財保護法の条文中にあるように、文化財は活用することで世界の文化の発展に寄与する役割があります。文化財だから触っちゃいけない、何もしちゃいけないということではなくてそれぞれ時代に合わせて作り変えていく部分があると思います。建築物の魅力は実際に入って、見て、触ってみて空間そのものを体験することができる部分であると私は考えます。(嶋村)

<『亀山トリエンナーレ ART KAMEYAMA 2014』について>

作家が一週間、亀山に泊まり込んで展示作品を作っていく過程で街に馴染み、定着していくのが面白いと思う。アートイベントを通してたくさんの方が自分たちの街をどうしたいのか、まちづくりについて考えるきっかけになればいいなと思います。(浜田)

私がアートイベントで話していることに若干違和感がありますが(笑)、文化財の活用方針にイベントの趣旨が合っていると協力させていただきました。文化財の価値を大きく変えてしまうこと以外はやってはいけないことは、私はないと思っています。危険があるかどうかについては事前にコミュニケーションをとることで回避できるのでこれからもしっかりと実行委員会と連携していきたいです。(嶋村)

一文責 今岡翔平

嶋村「文化財は保存公開だけでなく、活用していかなくてはなりません。文化財の価値を変えること以外、やってはいけないことはないと思います」

浜田「こうしたアートイベントから、みんなが街をどうしたいのか考えるようになっていけばいいですね」





亀山トリエンナーレ ART KAMEYAMA 2014について思う事

堂本清文

2007年4月のガレージギャラリーオープンから2014年11月まで8年間亀山で展覧会をしてきました。2006年の秋にはすでに亀山での東町商店街 i n ART を構想していたので9年間この丘の上の東町商店街に足を運んでいることとなります。この8~9年間に「多くのドラマと場面」を経過しながら現在に至る事を痛感しています。

「作家は有名無名に限らず地域やファンに支えられて成り立っている生き物」だと思うから作家を支えるギャラリーのオーナーになったつもりで作品と作家の姿勢に関わりながら作品の展示に協力と理解と支援をしながら互いに作家と東町商店街の「おかみさん」や「亀山市職員」の方とが対等にアートを語り合う光景を想像してみたいと訴えてきました。最初に亀山協働センター「みらい」でミーティングをした時の提案がまさにこのことでした。「商店街の空き店舗や営業中のスペースを貸してあげますよ、あとは作家さんでやってくださいと言うだけの関係は長続きしない。」と伝え、さらに積極的に作家、(アーティスト)を亀山から一人でも多く日本や世界に向けて発信しようという努力と姿勢がパワーになるとお願いしました。

その時、森本薬品の富松さんが「今の言葉を聞かなかつたらよかった。何やら気が重くなった。」とおっしゃいました。10人くらいの出品予定の作家と商店街の方々の様子を見て「作家の方々は希望とパワーに満ちているけれど商店街の方は下を向いて見える」「何やら黒船がきたみたいや。」と言われる市役所の方もいました。2009年に第2回アート亀山を実行するときにはわずか一年間の準備期間にも関わらず地元の方は自費で別府で開催された現代アートの芸術祭「混浴温泉世界」を見学・視察に行かれました。地元の作家の展示に関わり、陰ひなたとなって相談に乗っていただいたり、展示の手伝いを買って出て頂いたりしていました。現在に至るまで様々な各展示場所の数だけドラマや出会いがありました。

2008年の11月16日(日)13時30分~:トークセッション「アートで地域社会にムーブメントを」というタイトルで「現代アートを語る、i n 亀山」:当時の三重県立美術館長の井上隆邦さん、名古屋を中心に活躍されるアート評論家日沖隆さん、ガレリアフィナルテの福田久美子さんによるトークの中でも都会型のアートトリエンナーレと地方型アートトリエンナーレの違いと特徴について触れられたように思います。アート亀山は都会にはなくなってしまったことや都会で味わえない「人のつながり方」を体験し体感できるアートでありたいと話を紡いで次回にアート亀山のコンセプトをつないだ気がします。

今回のトークセッションでは井上隆邦さん(前三重県美術館長、横浜トリエンナーレ2005事務局長)と田島悠史さん(宝塚大学講師、社会におけるアートの研究者)のトークショーの中でも現代社会におけるアートによる地方の町づくりや町おこしが当たり前になってきている中で「アート亀山の独自性」を模索し続けることが重要だと痛感しました。これには異なるジャンルの活動家、文化人、研究者、作家、ミュージシャン、ダンサー、演出家、フードコーディネーター、などなど・・・多くの業種、業界の方の集積と集約が必要だと痛感しています。その一つの切り口に今回の「文化財の保存と活用」があると思います。

クロージングイベントでは「伝統的日本人建築を運用する」というテーマで「アートやその他の企画」によって文化財の活用可能性について語り合いました。

文化財の活用とその実例を今回は実際に提案し見せることが出来ました。この実績はとても誇らしいことと思っています。ただ単にこのようなアート、演劇、ダンス、音楽、シンボジュウム、等々の企画を実行したというだけではなく、しっかりとコンセプトを模索し話し合う機会を大切にしている事こそが宝だと思います。つまり異文化や異な

るものの共存共生社会の模索なのです。「街並みの保存」に携わる方や市役所の管轄をされている嶋村明彦さん（文化財室室長）と 浜田晶則さん（建築家で文化財とその活用やリフォームなどについての研究家でもある）のトークの中に重要なポイントがありました。

次は何かと何かを結び付けてアートな関係を創る努力こそがアートな街（地域）の模索なのです。自分は高校の教師です、「美術教育」が社会を少しでも豊かにつないでいくのではないかと思います。「どんなジャンルの、どんな世代の、どんな人種のアートであっても楽しめる亀山を創りたいものです。（2014年11月23日（日））

素敵な出会いに感謝！

東京に戻り、慌ただしい毎日と東京Timeな生活に戻りました。

Fanaco Kona(ろぐいん)

亀山という土地は本当に面白くて、沢山の発見と都会とはまた違った新しい刺激がありました。そして、何よりも素敵な出逢いがたくさんあり、心温まる交流がもてたことが本当に自分の人生にとって財産になりました。車がなくて、移動で困っていたところを毎日のように送り迎えをしていただき、wifiも完備な滞在宿まで提供してくれ、ドラエモンのポケットのようになんでもでてくる「猫の館」の伊藤幸一さん。本当にありがとうございます。亀山トリエンナーレ実行委員長の伊藤峰子さん、荷物搬入から最後の撤収までお手伝いいただきありがとうございました。そして副委員長でもあり事務局の森敏子さん。作品では急遽、母役でも出演していただき、本当に様々なお力添えをしていただきありがとうございます。いろいろお話を聞けて、本当に楽しかったです！

他にもたまにはいった食堂で移動手段に困っていると、店主のお父さんが「ほな、送って行ってやるわ」と送ってくださったり、ミーティングする場所に困っていると喫茶店が閉店時間でも「店番しとって！」と融通をきかせていただいたり、道端でたくさんの果物やお菓子やら松茸ごはんをいただいたり、激励の言葉をいただいたり、街全体が家族のようにあたたかくてまた還りたいなと思える場所でした。

そして毎日公演があったのでなかなか交流できなかったのですが、最後は共に出演していたアーティストの皆さんと交流ができ、表現について深い話がたくさんできてすごく楽しかったです！まだまだ足りないですが…

そしてそして、想像以上のたくさんの方々から作品を観ていただき、感想をもらえたことで本当にやり甲斐を感じました。「子供に本物をみせたい」とか「盲目の娘でもこの作品なら感じる事ができるはずだから、また観に来た」とか、「たくさん宣伝します」と次の日もまたその次の日もお客さんが繋がって観に来てくださったり、はじめて出会う人々と作品を通じて循環していくのを体感することができて、本当に幸せでした。

これからの課題や自分が社会に対してどう向き合って生きていきたいのかを改めて再認識し、もっともっと進化してたくさんの人々と循環していきたいなと感じました。

素敵な出逢いに感謝！本当にありがとうございました。

街のみなさん、ありがとう

商店街でお店の営業中、しかも日曜の昼間に店頭にて紙芝居をさせて頂きました。

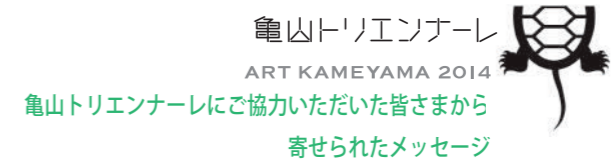
波多野 友香

お邪魔にはならないよう最初から心がけておりましたが、よそからやって来た作家の私にもナカヤの皆さんは優しく、「良かったら…」と、椅子等を貸して下さいたり、お店に来る子供達に「紙芝居やるから、観て行ってね」と宣伝して下さいたり等、とても親切にして下さいました。

最終日に、お店の裏で頂いたお菓子とお茶の暖かさは忘れたいものがありました。紙芝居を観てくれる子供達の間目真剣で、合間合間に話しかけてくれる事に元気を貰いました。どうしてこんなに親切にして下さるのだろう…と、親戚の家が増えたような心地になりました。

都市ではなく、街でアートイベントを行う事の意義を感じました。また、会期後も、偶然店主さんと地元にて再会し、土地と人、人と人の引力を感じました。情緒的な感想で恐縮ですが、作家として作品を観て頂く以上の活力を頂いた気持ちです。

また3年後も、何かしらの形で関わりたい所存です



伊藤 幸一 (実行委員)

ねこの館の主、通称ねこさんです。

もともと電気系の技術屋なので専門分野を活かしてお手伝いしています。

今回の大仕事は青木ビルを暗室化と照明でした。既設の建物をお金をかけずに美術館に仕立て、終わったら元に戻すという難題でした。

さいわい別件の東北訪問の帰途、横浜トリエンナーレを見学する機会を得て自信をつけました。

窓は商店街で廃棄された段ボールでふさぎ、スポットライトは中古品を利用しました。ダクトレールは100円ショップのコードをハンダ付け改造し制作しました。天井への取り付けは既設の灯具にのぼり旗用のポールを縛り付け改装することなく設置ができました。

暗幕は幸い関係者の貸与があり足りない部分には農業用の黒いシートで覆いました。

当地は道が複雑なので各地から来訪される皆さんの案内用にスマホ用案内マップもネットに上げました。これは自分のいる位置、駐車場、展示場所、トイレやレストラン、更には作品までスマホで見れる新しい試みとなりました。またFacebookページも随時更新し、リアルタイムでの情報発信に努めました。ただこれらの新しい手法は、十分に周知活用が行き届かなかったらいいはありません。

昨年に続き、自宅の離れは亀山温泉白鳥の湯と共に作家の皆さんの宿舎として大いに活用いただきました。私たち老夫婦にとって若い皆さんとの出会いは、非日常を感じる楽しみでもあります。

次回開催時は、またお手伝いできればいいなと願っております。

福沢 美由紀 (実行委員)

亀山は古いひなびた小さな町ですが、普段からいつも人が生き活きしています。トリエンナーレのあいだはマップを片手にたくさんの方が行き交う姿がみられました。市民に加え、年に一度の懐かしい人や、日本中から、いえ、海外からもいらした初めましての方々により、より一層活き活きしました。

亀山市が、古いものを大切にだけでなく、現代アートのアーティストを生み出す県内唯一の「登竜門」となっていることに誇りを持ちたいと思います。何より、とっても楽しかった！しんどいお産の後、また赤ちゃんが欲しくなる感じに似ているような…。

今岡 翔平 (実行委員)

東京から8年半ぶりに亀山に帰郷した私を実行委員会のみなさんは温かく迎えてくださりました。

最終日のトークセッションにあったような若手作家さんの熱い想いを形にできる素晴らしい取組みだと思いました。

今回担当したクラウドファンディングのように実行委員会にとっての『新たなチャレンジ』を支える委員としてこれからも積極的に関わっていきますのでよろしく願います。

富松 みね子 (実行委員)

今回も色々な愉快的な経験をしました。子供達が作った厚紙造形物を壊さないよう車で運んだり、毎日コンセントの抜き差しをしたり、加藤家の案内当番をしたり、館家の後片付けを手伝ったりと。体を動かすことで満足感を得ている自分を恥じらいつつも手伝えることが嬉しく思いました。実行委員会の会議にはじゅうぶんに参加できず、お腹にそれなりに収めることができないうままにスタートし、オープニングパーティーのクラッカーの準備を忘れ、申し訳ないこともしました。

私の店には亀山市芸文協の皆さんの作品が飾られ、今までにない企てとなり、和のショウウィンドウと化しました。又、店主の似顔絵を作家さんが描くという「絵顔で笑顔の商店街」という企画では作家さんは自分の作品以外の労となり大変だったのではないのでしょうか。全ての皆さんに感謝、感謝です。ありがとうございました。

亀山トリエンナーレ
ART KAMEYAMA 2014
亀山トリエンナーレにご協力いただいた皆さまから
寄せられたメッセージ



藤田 はな (実行委員)

文化財建造物が会場となった中で、亀山の歴史に負けないと作家の皆さんが、苦悩しながら作品を創る過程に心うたれました。また、亀山の旧街道の古い静かな町並みを作品を楽しみながら歩く姿は、亀山という土地とアートの新しい関係がはじまるのを見ているような新鮮な光景でした。

福井 勝巳 (ボランティア)

亀山トリエンナーレに関わる機会を頂けた事に感謝。

まだまだ自分は人生経験が浅いので、今回ボランティアとして参加して新鮮なものを吸収できたことを実感しています。たくさんの作品を間近で見て、話を聞き、視野を広げることができ、いい体験でした。

高尾 佳代子 (風の丘)

亀山トリエンナーレに参加させて頂けたこと、本当にうれしく思っています。

井上館長にキュレーションをして頂き、夢のような8日間でした。美濃部さんも大島さんも佐藤さんもとても喜んでいました。

岡田 桂織 (亀山市在住・月の庭店主)

いつもは静かな町に新しい風が吹きました。

トリエンナーレが無ければきっと一生亀山とはご縁の無かったような人々が亀山に足を運んで下さった。

かつて、亀山は宿場町で旅人が新しい風を吹かせて来た町だったはず、しかし、今はただの通過点となってしまい、足を運ぶ人も無く風が吹かなくなっている。

月の庭を開店していた時は全国から旅人がやって来ては新しい風を運んで来てくれて、まるで血流の様に月の庭を元気にしてくれていたものだ。しかし、その月の庭でさえ今は新しい風に当たる事は数少なくなっていた。

アートってあえて言葉にすると恥ずかしい感が先に立ってしまっていて、私はちょっと引いたところから見ていたし、最初展示の話しを頂いた時には実は余リピンと来てはいなかったのだ。ごめん下さい。

でも、作家さんたちの作品が搬入されて、月の庭に風を感じた時に素直にその風に吹かれることが出来た。

館家や加藤家や商店街を覗いて歩き、町にも流れるその風を感じ私は嬉しくてニヤニヤしながら歩いていた。

後はトリエンナーレが一過性のもので無く、ジワジワ町に浸透してみんなが作家になってきて市民総芸術家になって日常がアートになればアートって言葉も恥ずかしくなくなるかもしれん。

ま、本来日常こそがアートな世界なんだしね！

櫻井 大吾 (亀山市在住)

アート亀山はアートを観るといことと同時に、亀山にこんなところがあるんだ、という再発見のイベントでした。

普段入ることのできない場所に入ること、今まで関心のなかったこと知らないことに出会い、新たな気づきがあったように思います。

芸術は、作品と空間とを身体で感じるものだと思います。今後も亀山の知られざる名スポットが、ギャラリーとして開拓されることを楽しみにしています。

中村 健一 (鈴鹿市在住)

今年もアート亀山トリエンナーレな秋。ツアーガイドボランティアで広報用のスナップ撮ったりしながら全作品に触れさせてもらいました。月の庭でコーヒーを飲み沢山の作品に癒されパワーもらいました。

近畿大学工業高等専門学校 都市環境コース 建築科 教授 青木 繁

卒業研究の一環として、4名の学生が、11月1日から2日にかけてゼミ合宿をしながら、ボランティアスタッフとして参加させていただきました。簡単ですが、率直な感想を述べさせていただきます。

近畿大学工業高等専門学校 青木ゼミ・向出 京平

今回ボランティアとして参加させてもらい、普段あまり芸術に関われないので新しい経験ができました。

この経験を名張市旧市街地商店街を対象とする卒業研究にも繋げていきたいです。

近畿大学工業高等専門学校 青木ゼミ・竹森 雅紘

亀山トリエンナーレの順路案内プレートの配置をさせていただきました。地元の人と一緒に回れたらもっと良かったと思いますが、こういった経験は、あまりできないのでいい経験ができました。ありがとうございました。

近畿大学工業高等専門学校 青木ゼミ・安田 凌平

様々な作品を見ることができてとても良い経験になりました。ある会でカーテンにフックが付きっぱなしになっていて、ボクの目に引っ掛かってしまい、痛かったです。

近畿大学工業高等専門学校 青木ゼミ・津山 嵩昌

今回の亀山トリエンナーレのボランティアに参加させてもらって、街おこしに必要なのはその街の人達の「活気づけたい」という気持ちだと学びました。ありがとうございました。

事務局 森 敏子

自転車に乗って展示場所から展示場所へ駆け抜けた、1週間。

いつもは静かな亀山の街をMAPを片手に歩いてる人々。

会う人、会う人、「良い街ですね。」「アートが溶け込んでいますね。」との言葉をいただく・・・。

作家さんとの連絡、宿泊所の手配、ポスター・MAPづくり、

協賛のお願い、ボランティアさんの募集・・・。

忙殺された日々。

それらの日々も若いアーティストさんのひたむきな姿勢と作品群、

そして来場者からいただく言葉で、一瞬にして吹き飛んでしまっている。

「亀山らしさ」を追求したトリエンナーレに

すでに私の気持ちは次回に向けて走り出している。

監修者の井上隆邦さん、ありがとうございました。

心より感謝申し上げます。

そして、全国の作家の皆様、商店街の皆さま、来場者の皆様、

支えていただいたすべての皆様、ありがとうございました。

実行委員会の皆様、お疲れさまでした。

亀山市とは今後も「協働の夢の実現」を追い求めたいと思います。

市の職員の皆様、ご協力ありがとうございました。

事務局として、至らない点も多々あったことと存じます。

どうか、お許してください

